

学校園教育推進サポート事業 報告書

学 番	1313	学校名	上所小学校	校長名	三條 貴之	作成者名	栢澤 誠
学校教育推進サポート担当者名		栢澤 誠				電 話	283-7258

1 実践のテーマ

学習の基盤となる情報活用能力の育成

2 テーマ設定の理由

当校では一昨年度より、研究主題「学びを生かす子どもの育成～情報活用能力を育む授業づくり～」の下、児童が情報活用能力を発揮しながら「深い学び」を具現する授業を目指し、校内研修に取り組んでいる。令和6年度は、「学習の基盤となる情報活用能力の育成」を目標に掲げた校内研修を継承しつつ、これまで取り組んできた全学年の交換授業（国語と算数）に加え、高学年において特定教科担任制を推進することにより、新たな体制で各教科における目指す児童の姿を具現することに取り組んだ。

令和7年度は、これまでの校内研修を継承しつつ、「全ての子どもが学ぶ愉しさを実感する」ことをテーマに掲げ、学習が得意な子ども苦手な子ども全ての子どもたちが学習に意欲的に取り組むことができる姿を具現することを目指し、テーマを設定した。

3 実践内容

(1) 校内研修の推進と教育研究発表会の開催

① 校内研修の推進

- ・全教職員による研究授業を通して、目指す児童の姿になるための指導の方策を探る。
授業者は、「情報を整理する」場面に焦点を当て、児童がどのような「考えるための技法（思考技能）」を働かせるかを意識しながら、働き掛けを構想する。児童が情報活用能力を発揮しながら「深い学び」に向かう姿を目指す。

<目指す児童の姿>

情報を比較、分類、整理しながら、相互に関連付けて再構成したり、それらを
(情報活用能力を発揮している姿)

精査したりして、自分の考えを形成する姿

(各教科等における「深い学び」の姿)

- ・ICTの利活用に係る取組を教職員間で共有し、日々の授業におけるタブレットの効果的な活用の仕方を探る。
- ・学習の苦手な子どもたちのつまづきを焦点化し、授業の中でどのような手立てを講じることで意欲をもって学習に取り組むことができるかを探る。

② 「学びの上所小」教育研究発表会の開催

- ・令和7年11月22日（土）に「学びの上所小」教育研究発表会を開催し、本研究の成果を発表し、参会者からの批評や意見に答える。

(2) 高学年における特定教科担任制の促進

4～6年生において、これまでの交換授業を一步進め、国語、算数、理科、社会、音楽、図工等の特定教科担任制を推進する。

- ・5年生を3クラス、6年生を4クラスに編成する。
- ・国語、算数、理科、社会、音楽、図工等の特定教科担任を決め、特定教科担任が4～6年生の指導を行う。
- ・4～6年生の学級担任の負担を減らし、教材研究の時間を確保するため、一人当たりの授業時数が20～23時間程度になるような運用を目指す。

4 実践計画

実施時期	実施内容 (研修会、先進校視察、授業公開 等)
通年	・ 4～6年生における特定教科担任制の推進
〃	・ 研究内容に基づく研究授業の実施 (第1クール～第4クール)
〃	・ ICTの利活用に係る情報交換
11月22日(土)	・ 「学びの上所小」教育研究発表会の開催
12月	・ 本研究のまとめ (成果と課題)
1月	・ 教育評価アンケートの実施と分析

5 成果

240名の参加者を迎え、午前には、研究概要説明(授業と説明)を志田教諭が行った。その後、1年高橋教諭の体育、3年太田教諭の国語、4年中野教諭の道徳、5年梶山教諭の社会の公開授業を行い、体育には筑波大学附属小の眞榮里教諭、国語には東京学芸大学附属世田谷小の高橋教諭、道徳には東北芸術工科大学の佐藤講師、社会には関西学院初等部の宗實教諭を指導者に迎えた。



【志田教諭による授業】



【1年体育の公開授業】



【4年道徳の公開授業】

午後からは、子どもたちの学びを基に協議会を行った。その後、文部科学省加固教科調査官による算数、筑波大学附属小学校の眞榮里教諭による体育、東北芸術工科大学の佐藤講師による道徳、関西学院初等部の宗實教諭による社会、東京学芸大学附属世田谷小の高橋教諭による国語の出前授業、授業後には5名の皆様より授業解説をしていただいた。



【3年国語の協議会】



【加固教諭による出前授業】



【宗實教諭による出前授業】

研究主題である「学びを生かす子どもの育成～情報活用能力を育む授業づくり～」について、上述の内容で提案し、多くの講師より指導講評を受けたり、大勢の参加者より感想や意見をいただいたりしたことにより、これまでの研究より得た知見の妥当性や成果と課題を明らかにすることができた。本事業による助成とサポートのおかげであると深く感謝している。